

経済学と人間

財 団 創 命 義務を盡す

経済学部長 砂川 良和

入学おめでとうございます。今年の冬は、ことのほか暖かいおだやかな毎日でしたが、入試のほうは、だいぶん荒模様でございましたが困惑されたことと思います。分離・分割、また理科の点数変更など戸惑いの中から本学部を選ばれ、無事合格されましたこと、心からお喜び申し上げます。

さて経済学部に入学され、これから経済と経済学を学ばれるわけですが、経済学は、英語や数学どちらがって、これまで皆さんはあまりなじみのなかった学問といえましょう。けれども私たちの日常生活に深いかかわりを持つ重要な学問という点では、他のいずれの学問にも優るとも劣りません。

ところで私たちが新入生の皆さん方からよく聞かることの一つに、「経済学を勉強するのに、どんな基礎知識が必要でしょうか」ということがあります。この質問に答えることは、大変むずかしいことですが、あえて答をといわれますと、あらゆる分野の学問というほかありません。もっとも経済学部に合格された皆さん方なら、さしあたりは、特別に何かを勉強しなければ、経済学を学ぶことが出来ないということはないと思います。ただあえて申し上げますと、経済学という学問は、数字や式をよく使います。数字や式を利用することが経済学の勉強に大変有効だからです。たとえば、地価が50%上昇したとか、円が5円50銭下落したとか、また貿易黒字が〇〇億ドル増加したとかいったぐあいです。また、いろいろな絏のすがたも、式で示されます。いまや数字や式とのつきあいなくして、経済学を学ぶことは、ほとんど不可能といってよいでしょう。したがって、経済学を学び経済を見る眼をやしなうということは、まず数字や式に慣れることです。数字

や式アレルギーの方は、はやく慣れるよう心がけて下さい。多分に努力と忍耐を必要とするとは思いますが。

数字や式は、いささかの感情をも交えることのない冷酷非情な事実表現ともいえます。数字や式の示す冷厳な事実は、厳粛に受け止めなければなりません。しかし経済学を学ぶにあたって、心しなければならないことは、数字や式のうちに人々の生活があり、人生の哀歓があることを認識することです。いかほど正確な数字、精緻にして華麗な式であっても、それにこだわって、人間生活のすがたを見失ってはなりません。それではほんとうの経済学の勉強とはいえないからです。なぜなら経済学も他の学問と同様、究極的には、人間の幸せとか、人間が幸せになるためには、どうすればよいか、といったたぐいのことを問題にする学問だからです。しかもそのことは、たんに国内的視野にとどまらず、国際的視野から考えなければなりません。

この地上には、飽食の時代を満喫している人もいれば、飢えや病気に苦しんでいる人もいます。また環境の汚染や破壊も地球的規模で進行しているといわれています。経済学を学ぶ者は、地域や国境で線引きし、「福は内、鬼は外」といった感覚で物事を考えることは禁物です。また覚めた眼で現実を直視することも必要ですが、それ以上に人間が生活する社会に人間味豊かな共感をよせることが大切と思います。

四年ないし五年の歳月は、長いともいえますが、また一瞬のうちに過ぎ去ってしまう短い年月もあります。「日々これ新たに」をモットーに、充実したカレッジライフを送られるよう心から期待いたします。